

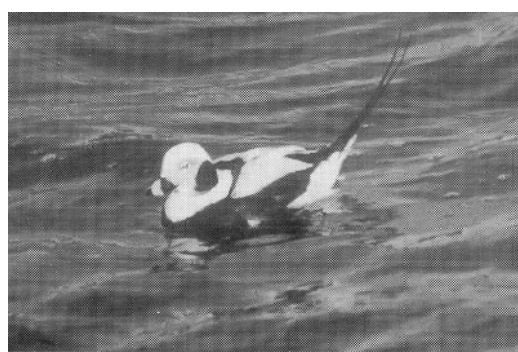
冬こそ道北！

疋田 英子

私は最北の街の稚内に住んでいるのですが、道北は範囲が広く季節により鳥によりフィールドは異なり、またその数も多いのです。何処も私にとっては、とっておきのフィールドばかりです。

コオリガモ

その中の一つ稚内ならではのコオリガモの越冬場所を紹介しましょう。コオリガモを一度に300羽も見ることが出来るのは日本では稚内だけ・・・とされています。毎年11月の下旬になると、毎日30羽前後の群れで渡って来ます。そして12月上旬には300羽ほどになり、港はア、アオナ ア、アオナと鳴く声でいっぱいになります。



コオリガモ

この鳴き声は、最北の街に本格的な冬の到来を告げるものです。稚内の海岸では割と何処でも見ることは出来るのですが、一番多いのは第一副港と北洋埠頭です。その他、シノリガモ、クロガモ、ヒメウ、ウミアイサ、ホオジロガモ、スズガモ、ケイマフリ、ハシブトウミガラスなども港内で見ることができます。

稚内港はほとんど、流氷が来たり結氷したりしません。漁船の出入りのたびに港内にいた鳥たちは慌てて飛び立ちます。でもまたいつの間にか戻って来ています。あまりいないなあ・・・と感じた時は、きっと漁船の出入りに驚いて外海に出て行ったのだと思って下さい。少し待っていると必ず戻って来ます。



稚内港

第一副港の一部だけ結氷するところがあるのですが、その上でオジロワシ、オオワシを見

ることができます。近くの加工センターからトラックで荷運びされる時にこぼれ落ちた魚を拾って（王者の風格も台無しなのですが…）食べています。至近距離で見られるところが魅力ですね。加工センターが休みの日は彼等も休み！という事です。コオリガモの観察期間は11月下旬、3月下旬までです。3月下旬にはもう夏羽になりつつあるコオリガモを見ることが出来ます。

観察する時は漁業の仕事をしている人達の邪魔にならないように注意して下さい。

猛禽道路

もう一つ。抜海から天塩までの道々106号線を私たちは猛禽道路と呼んでいるのですが、春、夏は花も美しくエゾカンゾウやエゾスカシユリが咲き誇り、秋はススキも見事です。その中で、ノビタキ、オオジュリン、キマユツメナガセキレイ、ホオアカ、シマアオジ、ノゴマ、コヨシキリ、ノスリ、チュウヒ、ミサゴは必ず見られます。（言い切っているのかしら？）これらは繁殖も確認しています。

この道は何と言っても猛禽が多くなる冬が一番です。オジロワシ、オオワシ、ケアシノスリ、コミミズク、コチョウゲンボウ、チョウゲンボウ、運がよければ…シロハヤブサやシロフクロウにも出会うことが出来ます。日本海の荒波の上には雪の利尻富士がそびえています。このロケーションの素晴らしさはいよいよ自慢しなくなってしまう。オイシイ話ばかりで申し訳ありません。あくまでも運がよければ…です。



冬の利尻富士

自家用車で移動しながらの観察がよいでしょう（約70kmあります）。貸切道路のようで快適なのですがなにしろ海沿いは吹雪きやすいので気を付けて下さい。遭難する可能性もあります。（ホントですよ！）

おまけですが…抜海港にはゴマフアザラシが150頭ぐらい越冬しています。たまには、アビ、ハジロカイツブリ、ミミカイツブリがいるのでよく観察して下さい。106号線は猛禽ばかりではなくエゾシカやキタキツネにも出会うワクワク道路なのです。

冬こそ道北！